

瑞宝双光章を受章

加藤 顯子さん（黒野）

このほど加藤 顯子さん（黒野）に、瑞宝双光章が授与され、役場において町長より伝達されました。

加藤さんは、昭和34年に教員になられ、持ち前の行動力で常に最前線に立ち、特に音楽教育では情熱的で熱い指導に励まれました。平成元年に真正町（現在の本巢市）立弾正小学校に赴任された際には、若手教員研修や授業研修に力を入れ、教員育成にご尽力されるとともに福祉教育にも関心をもち、地域の人と児童との交流活動を通して「福祉教育」の位置づけを探索されました。平成8年に羽島市立福寿小学校長をご退任された後、平成12年から24年まで、教育委員として教育振興に貢献されました。また、現在もなお地域の合唱団の指導者として活躍されています。



▲受章された加藤さん（左）

周濠から土器が出土

令和5年度 上磯古墳群（北山古墳）発掘調査



▲発掘された土器（器台）

上磯古墳群は、3基の前方後方墳（笹山古墳・北山古墳・南山古墳）と1基の前方後円墳（亀山古墳）で構成される古墳群で、古墳時代のはじめに連続して築造されたと考えられています。

町では、平成30年度から上磯古墳群の国史跡指定に向けた調査を実施しており、10月23日～12月8日の間、北山古墳の発掘調査を行いました。

周濠（古墳の周りの堀）と墳丘の裾（古墳の端部）を検出し、古墳の周囲には幅10メートルを超える堀がめぐっていたことが確認できました。また、墳丘の長さは85メートルに達することもわかりました（従来は83メートルとされていたので、2メートル大きかったことになります）。

さらに、周濠の底からは、高坏（たかつき）や器台（きだい）などの土器が出土しており、これらの土器は、あけぼのミュージアムでの展示を予定しています。

※詳しい内容は町ホームページをご覧ください。

※内容は令和6年1月現在のものです。今後、調査の進展に伴い見解が変わる可能性があります。



「書かないワンストップ窓口」を目指して

窓口のあり方検討部会

1月15日、役場で町窓口のあり方検討部会「窓口利用体験調査の庁内報告会・ワークショップ」が行われました。これは、窓口業務見直しのため、昨年12月に実施した「窓口利用体験調査」の結果を踏まえ、デジタル庁窓口BPRアドバイザーの及川慎太郎氏（北海道北見市）をお招きして実施したもので、他自治体職員の見学もあり、職員など47人が参加しました。

庁内報告会では職員による窓口利用体験調査実施結果について発表の後、及川氏による講評があり、課題解決のヒントなどをいただきました。引き続き、及川氏による講演会、午後からは現地調査やありたい姿ワークショップなどを行い、参加した検討部会員は、潜在的な課題などを探り、業務改善に反映するべく意見を交わしました。

今回判明した課題等は、検討部会における検討課題と位置付け、今後も窓口の業務改革に継続して取り組んでいきます。



▲講演を行う及川氏（中央）

長寿のお祝い

95歳おめでとうございます これからも健やかに



林 信雄さん（稲富）
昭和3年12月12日生まれ

所 武昭さん（西方）
昭和4年1月1日生まれ

